

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	杉浦 永卓	学校名	安城市立明祥中学校
実施学年	1年生	教科	社会科
単元名	第2章世界の諸地域 「アジア州」(東京書籍)		

《学びを深めたいポイント》

アジア州は、自分たちの住んでいる地域であるため、生徒には、他の地域よりも身近に捉えさせたいと考えている。近年、アジア州は、急速に経済が発展している。しかしながら、経済成長の裏には、貧富の差や環境問題等、様々な問題を抱えている。アジア州では、アジアの各地域の経済に焦点を絞り、生徒に考えさせていく。

単元を通じて、「アジア州の中で100年後、一番経済が伸びる地域はどこか」を念頭に入れ、毎時の授業に取り組みせていきたい。

本時は、7/7回目の授業である。本時の目標は「各地域の経済状況からどの地域が今後伸びるか予想しよう」という内容である。

導入においては、前時までの振り返りを行い、今までの内容を思い出し、経済的にはどうだったのかを中心に捉えさせたい。展開においては、多面的・多角的な視点から、個人追究を行い、自分の選択した地域をさらにグループで深めていきたい。終末においては、それぞれの地域をなぜ選んだのかをスカイメニュー上、学級全体の話し合いで深めていきたい。

アジア州という地域を様々な手立てを用いて、ミクロ・マクロな視点から捉えさせることで、学び初めよりもさらに生徒の思考が深められるような授業実践をしていきたい。

《SKYMENU 活用のポイント》

本時では、発表ノートとライブ公開提出箱の機能を活用した。前時の内容を振り返るため(教師のリフレクション)に、発表ノートを活用した。また、自分の意見をまとめるために、他者参照を第一の目的として、ライブ公開提出箱を活用した。生徒が自由進度学習を行っていく上で欠かせないツールとして、効果的に利用することができた。

○発表ノート

毎回の授業で発表ノートを配布した。その発表ノートには、「学習課題」、「目標(何を頑張るか)」、「スライド作成」、「振り返り」が記入できるようにあらかじめ作成した。その発表ノートを毎時、生徒が記入し、その授業は完結する。生徒が主体的に学習し、学習のサイクルが身につくような発表ノートを作成した。発表ノートを利用することで、学びの蓄積ができ、振り返りをすぐにできる利点がある。

○ライブ公開提出箱

本学級では、低位な学力の生徒に向けて活用している。それ以外にも、多様な視点をもたせるために、このツールを利用している。自由進度学習を進めるために、ライブ公開提出箱を利用しているが、何を調べれば良いかわからない生徒が仲間の取り組んでいる内容を参照したりしていた。主体的・対話的な深い学びを進めるために、ライブ公開提出箱は大きな一助となった。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	1.前時までの発表ノートを見て、 本時の問いを設定する。	・グループメンバーの発表ノートをラ イブ公開提出箱で読み、意見交流 をする。	・前時までの自分の発表ノート を読むだけではなく、他者の 発表ノートも読むことで、視点 を広げられるようにする。
展 開	2.アジア地域の各特徴を振り返 る。	・発表ノートをライブ公開提出箱で読 み、各地域の特色を全体で共有す る。	・ライブ公開提出箱からそれぞ れの地域の特徴を発表させ ることで、学級全体で授業を 作っていけるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> アジア州の中で100年後、一番経済が伸びる地域はどこか </div> 3.本時の課題を解決する。	・同じ地域を調べている人同士でグ ループ機能を使い、発表ノートを作 成する。【1】	
	4.学級全体で、それぞれの地域 がなぜ経済が伸びるのかを討 論する。	・それぞれのグループの発表ノートか ら、よりよいものをテレビに写す。	
ま と め	5.本時の振り返りを行う。	・本時の初めの考えからどのように 変化したのかを発表ノートの振り返 りに記入する。	・初めの考えと学級の仲間の 意見を聞いた後の考えを比 較することで、思考をさらに深 められるようにする。

【1】

・本時のめあて

D.スライド作成ここから

アジア州の6つの地域から一番経済が伸びると思う地域を答え、なぜなのか理由をスライドにまとめよう。

地域を記入(例;南アジア)

南アジア

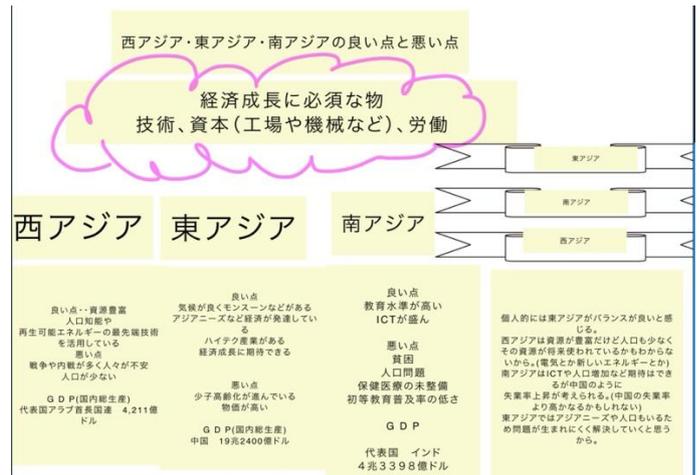


課題解決のための根拠

僕が南アジアを選んだ理由はいまだに人口が伸び続けているからです。現在アジアの経済大国は中国や日本ですが、この2つの国は少子高齢化により人口が減少傾向にあり、経済も伸び悩んでいるからです。



← 日本と中国の人口増加率



振り返り

F. 振り返り

アジア州は今回で終わりだけど、こういう授業を受けるとまとめる力や教科書にも載ってないことや友達と話し合えることが出来ました。とても楽しかったです。

アジア州の100年後はどうなっているかはわからないけど、こうやって学んだことを踏まえて考えることはとても楽しいなと思いました。

《実践を振り返って》

本実践では、一斉授業からの脱却をはかり、生徒が主体的に学習を進めることができたのではないかと考えている。生徒が授業に集中できない大きな要因は、「内容が理解できない」「そもそも興味がわかない」等によるものだと考えている。これを解決するために、「リアルタイム時間」をいかに増やすかを意識して授業実践をした。具体的には、ライブ公開提出箱(スカイメニュー)を活用し、お互いの進捗状況を確認し、分からなければ、他の級友の取り組みを真似することで主体的に生徒は授業に参加できた。このように、リアルタイムで色々な方向から多様な情報を手に入れることで、教師が教えるという一方向的な指導方法の改善につながると考えた。

スカイメニューの機能を活用しながら、生徒主導型の授業をいかに行うのか、また、生徒が社会科の授業でいかに充実感をもち学習に取り組めるのか、そのような点を意識しながら教師は授業研究をしていく必要があると考えている。